

南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

輝津館「海洋教育」事業

実施期間：平成29年7月5日（水）～平成30年1月31日（水）



【事業の内容・目的】

- 南薩摩の海に棲む魚をテーマに、海岸環境の現地見学や輝津館でのワークシート等を用いた学習を通し、その種類や形態的特徴、生態、魚たちを育む海の環境の大切さなどについて学ぶことを目的に実施しました。
- 「海のお仕事」をテーマに、講師の船員OBから、航海の仕事や暮らし、世界の海にまつわる体験談を聞き、船舶業務や船上生活、世界の海洋地理、海路・海運の重要性等について学ぶことを目的として実施しました。
- 「貝塚」をテーマに、阿多貝塚の現地見学をはじめ、縄文時代の海産物調理の再現実験の見学や貝塚出土遺物の見学、火おこし体験などを通し、地域における海産物の利用の歴史や海岸線の変化の歴史、海にまつわる地域の文化財等について学ぶことを目的として実施しました。

活動の様子

1. 「海のお魚」研究室

【開催日時】平成29年11月14日（火）8：45～11：35

【開催場所】南さつま市坊津町内海岸地帯・坊津歴史資料センター輝津館

【参加者数】35人

【活動内容・目的】

- 『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』を手にしながらの坊津の海岸の野外見学を通じて、魚類たちが棲む地元の海の環境について学ぶことを目的に実施しました。
- 『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』をテキストに用いた南薩摩の魚類に関する講話、ワークシート等を用いた学習活動によって、南薩摩の海辺でみられる魚類の種類や形態的特徴、海辺の環境に応じた魚類の生態、魚類たちを育む海の環境の大切さなどについて学ぶことを目的に実施しました。



坊津町内海岸地帯



この日は、鹿児島水圏生物博物館代表理事の岩坪洸樹先生を講師として、南さつま市坊津歴史資料センター輝津館と坊津町内海岸地帯での学習活動（授業）を実施し、坊津学園8・9年生26名と関係者、計35名が参加しました。

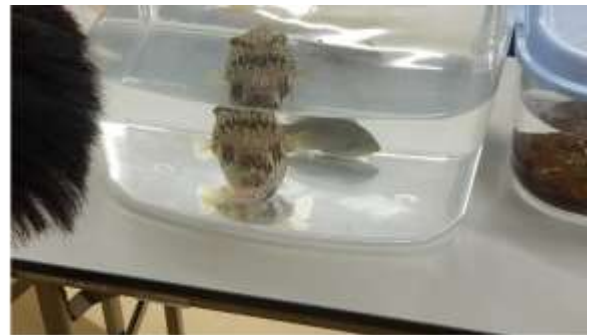
授業では、テキストとして使用する『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』を手に、まずフィールドワークとして、バスで坊津町内の各所の海岸地帯を訪れ、実際に海岸を見学しながら、様々な魚類たちが暮らす坊津の多様な海岸環境について学びました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



輝津館 多目的利用室

続いて、坊津歴史資料センター輝津館 2 階の多目的利用室に移動し、室内での授業を行いました。輝津館での授業の前半では、魚類パネルなどを使った講師の講話を聞きながら、『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』やワークシートを用いて、南薩摩の海岸環境として、「漁港」・「岩礁・サンゴ群」・「砂浜」・「マングローブ（汽水域）」・「河口（汽水域）」・「山と海」という 6 つの環境テーマと、それぞれの環境テーマに関する 14 種の魚類の生態について学びました。



輝津館での授業の後半では、ワークシートを使って魚類の形態的特徴を記録するなど、一般的には大学生などが学ぶような、魚類の分類方法の学習にもチャレンジしました。会場では、ハリセンボン・ソラスズメダイ・ナンヨウツバメウオなどの魚などの展示も行われ、参加した生徒たちは興味深く観察していました。授業では、こうした多様な魚類を育む海岸環境の重要性などにも話題が及び、南薩摩の海に棲む魚類の種類や生態、魚たちが暮らす海的环境、その大切さなどについて学ぶ良い機会となりました。



輝津館エントランスホール

後日、輝津館エントランスホールにて、「海のお魚研究室」の学習成果展として、子どもたちが今回の活動で記入したワークシートのほか、海岸環境と魚類の生態を解説した魚類パネルなどを展示し、「海の学び」の紹介を行いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【参加者の声】

- 海的环境と魚類の生態について学ぶことができて良かった。
- 海場所によって、生息する魚が違ふことが分かった。
- これからも海のことを知りたいと思った。
- 目の前で魚類を観察することができて良かった。
- もっと地元の海に親しみを持ちたいと思った。
- 魚が棲んでいる海を大切にしていかなければならないと思った。

活動の様子

2. 海のお仕事—船乗りさんのオーシャンライフ—

【開催日時】平成29年9月13日（水）14:20～15:55

【開催場所】南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

【参加者数】23人

【活動内容・目的】

- 海での船舶業務・船上生活にまつわる講師（船員OB）の体験談を聞き、航海を行う人々の仕事や航海中の人々の暮らしについて学ぶことを目的として実施しました。
- 世界各地の海を航海してきた講師（船員OB）の体験談から、講師が船乗りとして実際に目撃した世界の海の姿や実態、海路や海運の重要性について学ぶことを目的として実施しました。



輝津館 多目的利用室

この日は、地元坊津出身の森義彦氏（元 さんふらわあ事務長）と上村芳材氏（元 運搬船船長）を講師として、南さつま市坊津歴史資料センター輝津館での学習活動（授業）を実施し、坊津学園7年生15名と関係者、計23名が参加しました。

授業では、参加した生徒から二人の講師への質問（インタビュー）などを行いながら、体験談を交えた講師の話をうかがい、まず航海の仕事やそれに携わる人々について学びました。



続いて、輝津館エントランスホール2階に展示されている、旅客フェリー「さんふらわあ」（初代）の模型を実際に見学しながら、さんふらわあの構造や運行の歴史などのほか、初代さんふらわあの生みの親である、坊津出身の中川喜次郎氏についても学びました。



輝津館エントランスホール

また、世界の「七つの海」の話のほか、講師が体験した「世界の海」の様子として、マラッカ海峡やシンガポール海峡、スエズ運河やパナマ運河、赤道付近の海の様子、海の道「シーレーン」などについて学びました。さらに、世界の海的环境や、海外の国々の様子、航海生活のこと、講師の2人が船での仕事を選んだきっかけなどにも話題が及び、今回の活動は、航海に携わる人々の仕事や生活、世界各地の海の様子、海運の重要性などについて学ぶ良い機会になりました。

後日、輝津館エントランスホールにて、「海のお仕事—船乗りさんのオーシャンライフ—」の学習成果展として、子どもたちが今回の活動で作成したワークシートなどを展示し、「海の学び」の紹介を行いました。

（今回の活動は、坊津学園の「坊津学」授業も兼ねて実施されました）

【参加者の声】

- 海についての講師の体験談を聞くことができたので良かった。
- さんふらわあの模型などを見ながら学習できたので良かった。
- さんふらわあについて知ることができて良かった。
- 世界各地の海について知ることができ、海に関する仕事に興味を持った。
- 世界の七つの海について知り、海に関する言葉の意味を詳しく知ることができた。

活動の様子

3. 貝塚のひみつ

【開催日時】平成29年12月13日（水）14:20～15:50

【開催場所】阿多貝塚・歴史交流館金峰

【参加者数】59人

【活動内容・目的】

- 阿多貝塚の現地見学をはじめ、縄文時代の海産物調理の再現実験の見学や貝塚出土遺物の見学、火おこし体験などを通し、地域における海産物の利用の歴史や海岸線の変化の歴史について学ぶことを目的として実施しました。
- 「貝塚」をテーマとした学習活動を通し、海にまつわる地域の文化財等について学ぶことを目的として実施しました。



阿多貝塚

この日は、南さつま市金峰町の阿多貝塚と歴史交流館金峰において、坊津歴史資料センター輝津館・南さつま市埋蔵文化財センター・歴史交流館金峰の3施設共同スタッフによる案内・解説・指導のもと学習活動（授業）を実施し、金峰中学校1年生43名と関係者、計59名が参加しました。

授業では、まずフィールドワーク・遺跡見学として、バスで阿多貝塚を訪れ、スタッフの案内・解説のもと、実際に現地の地形などを見学しながら、縄文時代の人々が食用にしていた海産物、マガキやハマグリなどの貝殻などが、阿多貝塚で出土していることや、縄文時代の海進期には阿多貝塚の近くまで海岸線が迫っていたと考えられていることなど、気候変動等による海岸線の変化の歴史等について学びました。



歴史交流館金峰（屋外）

続いて、バスで歴史交流館金峰へ移動し、縄文時代の煮炊きを再現した調理実験の見学を行いました。土器を使用した野外でのマガキとハマグリ煮炊きの様子を、参加した生徒たちは興味深く観察していました。



歴史交流館金峰（屋内）



輝津館エントランスホール

歴史交流館金峰の館内では、スタッフの解説のもと、阿多貝塚から出土した縄文時代の土器やマガキ・ハマグリの貝殻など、実際の出土品について見学しました。また、スタッフの指導のもと、昔の人々が行っていた発火法の体験も行い、参加した生徒たちは、まいぎり式やひもぎり式の火おこしに、一生懸命チャレンジしていました。後日、輝津館エントランスホールにて、「貝塚のひみつ」の学習成果展として、活動当日の写真を掲載したパネルを展示し、「海の学び」の紹介を行いました。

今回の活動は、「阿多貝塚」という海にまつわる文化財を通して、南さつまにおける海産物の利用の歴史、海岸線の変化の歴史などについて学ぶ良い機会になりました。

（今回の活動は、金峰中学校の社会科授業も兼ねて実施されました）

【参加者の声】

- 縄文時代に、ハマグリ・マガキなどを食べて暮らしていたことがわかった。
- 今の阿多貝塚は海岸線から離れているが、昔は阿多貝塚の近くまで海だったことを始めて知った。
- 貝の煮炊きを見たり、出土した貝殻についての説明を聞いたりできて良かった。
- 海にもいろいろな歴史があることを知って興味を持った。
- 海は人が生きていくためにとても大切だと感じた。

【事業全体のまとめ】

海水魚の専門家や、船員 OB らの外部講師を招聘し、また市内の文化財・考古関係施設と連携するなど、生物学、社会学・地理学、考古学の各分野から地域の海の魚類や海岸環境、船舶業務や世界の海洋地理、地域における海産物利用の歴史などについて学ぶ機会を提供できた。

また、事業の連携・協力先、学校との協働により、野外学習、実際の魚類や博物館展示品の見学、講師へのインタビュー、縄文時代の海産物調理の再現実験の見学・火おこし体験など、参加者の記憶に残る体験型の授業を実施できた。その結果、地域の海でみられる魚類の特徴・生態、これらの魚類が棲む地域の海岸環境の特徴やその大切さを学び、また地元出身の船員 OB の体験談から、航海を行う人々の仕事や暮らし、世界の海の様子や海運・海路の重要性を学び、さらに地域の史跡「阿多貝塚」を通して、海産物利用の歴史、海岸線の変化の歴史、海にまつわる地域の文化財について学ぶなど、多様な切り口から地域資源を活用した地域ならではの「海の学び」を実施することが出来た。

さらに、今回の事業では、坊津地域での活動に加え、新たに金峰地域での活動も実施し、市内対地域への海の学びの普及・拡散を目指す取り組みの第一歩となった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 南さつま市立坊津学園	博学連携による地域の海を学ぶ授業実施
2. 南さつま市立金峰中学校	博学連携による地域の海を学ぶ授業実施
3. 岩坪光樹（鹿児島水圏生物博物館）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
4. 森義彦（元さんふらわあ事務長）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
5. 上村芳材（元運搬船船長）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
6. 南さつま市埋蔵文化財センター・歴史交流館金峰（南さつま市教育委員会生涯学習課文化係）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 南日本新聞（朝刊）	「坊津学園7年生 船内の仕事学ぶ 元船乗り2人講話」 平成29年9月16日
2. 朝日新聞（朝刊）	「船乗りが「海の授業」環境保護など訴える」 平成29年9月23日
3. NHK 鹿児島	NHK 鹿児島放送局ニュース番組「情報 WAVE かがしま」 平成29年12月13日
4. 南日本新聞（朝刊）	「南さつまの魚紹介 坊津・輝津館が図鑑発行」 平成30年1月4日
5. 毎日新聞（朝刊）	「南薩地域の魚類図鑑刊行」 平成30年1月15日

以上